

2026年度 第2回理事会 議事録

開催日：日時：2026年5月30日（土）13:00～ 場所：宮本公民館講堂 出席者：理事・役員

I. 長澤会長挨拶（組織のパラダイムシフト）

1. 財政の危機的現状と認識の共有

- 現状と限界：会員数の減少に伴い、来年度予算は非常に逼迫している。これまでの「会費と助成金だけに頼る運営」は限界（転換期）を迎えている。
- 改革への前向きな姿勢：「予算がないから活動を縮小・諦める」という後ろ向きな姿勢は取らない。今こそを「助成金依存からの脱却」を果たす最大のチャンスと捉え、前向きな改革を進める。
- 運営体制のシフト：一部の担当者にイベント運営を依存する体制から、「全員で活動を計画・実行する体制」へと移行する。

2. 新たな価値の創出

- 知恵を出す：お金をかける代わりに知恵を出し合い、「JAXA見学」のような、会員がワクワクする魅力的な企画を増やす。
- 持続可能なモデル：参加者自身が企画スタッフとしても楽しめる、持続可能な同窓会スタイルを確立する。

II. 各部・各組織からの現状報告

1. 同好会実行委員会

- 会員資格の課題：「同好会会員は同窓会会員に限る」という原則と、実際の運営実態との乖離について、話し合いの機会を増やして調整を進めている。
- 外部制約への対応：
 - 公民館の使用料50%減免（社会教育団体としての維持条件）の継続。
 - 市からの助成金（上限50%ルール）を維持するための適正な運営の徹底。
- 今後の予定：「第2回同好会委員会」にて、具体的な助成金の見直し案を提示し、協議を行う。

2. 健康スポーツ部

- 活動実績・予定：
 - グラウンドゴルフ（GG）大会：26名参加で実施。
 - ボッチャ大会：24名参加予定で準備進行中。
- 今後の予定：6月30日に「体育祭実行委員会」を開催予定。

3. ルームアドバイザー（RA）学級長連絡会

- 課題と対策：「市民大学校の学生は同窓会の活動内容をほとんど知らない」という前提に立ち、丁寧な説明やアピールの機会（場）を増やす必要性を強調。

III. 議題：会報（広報紙）の配布・コスト改革

クラス会の減少に伴う郵送コストの高騰に対し、具体的な改革案とアクションプランが提示された。

1. 配布形態の変化と課題

- クラス会の減少に伴い、個別郵送（有償）が全体の約3分の2（約44名増）を占めるようになり、郵送コストが財政を強く圧迫している。
- 対策：同好会の活動拠点を活用した配布協力を強化し、個別郵送の割合を下げて郵送費を削減する。

2. 広報部アクションプラン(AI秘書による提案の活用)

- 確実なコスト削減: 手作り原稿の継続、印刷納期の最適化調整、郵便区内特別制度の適用により、年間約2.3万円の追加コスト削減を目指す。
- 配布の多層化(優先順位の徹底):
この優先順位(クラス会>同好会>個人会員)を明確にし、効率的な配布を徹底する。
- 業務の持続可能性担保: 業務の属人化を防ぐため、印刷マニュアルや解説動画を作成する。あわせてデジタル人材を育成し、無駄のない持続可能な運営体制を構築する。

Ⅳ. 会計報告と来年度(2027年度)の財政シミュレーション

1. 現在の会員状況(2026年度)

- 会員数: 現在611名(年度目標610名を既に達成)。6月末には620名程度に達する見込み。

2. 積立金の枯渇(極めて重要な懸念事項)

- 赤字補填の限界: 過去3年間にわたり、毎年約20万~27万円におよぶ赤字を「周年記念事業用の積立金」を取り崩して補填してきた。
- 危機的状況: 2026年度をもって、当該積立金が完全に底をつく(枯渇する)。2027年度からは赤字補填の原資が存在しない。

3. 来年度(2027年度・令和9年度)ケーススタディ

- 収入見込み: 会員の減少等に伴い、収入総額は約159万円(前年比で約40万円の減収)となる見込み。
- 大胆な予算圧縮案の提示:
単年度での収支バランスを維持(黒字化・均衡)するため、現行の事業費合計(180万円)を100万円まで圧縮(ほぼ半減)するシミュレーション試算が提示された。
- 見直しの対象: 3大行事(体育祭、芸能大会、作品展)について、規模の縮小、会場の変更、日程の短縮などを含め、聖域なき見直し議論が必須となる。

Ⅴ. グループディスカッションの実施

同窓会の危機を全員が我が事として捉え、解決策を模索するため、グループディスカッションを実施した。

1. ディスカッションの目的とテーマ

- 検討テーマ: 「支出削減策」「収入増加策」「3大行事の時代適応」
- 情報共有の徹底: これまで不透明であった他部署の活動実態(各部の詳細な支出額、同好会への助成額、参加人数など)を資料化し、全員に共有した上で議論を行う。

2. 運営ルール

- 各グループにファシリテーターを配置する。
- 他者の意見やアイデアを否定・批判せず、率直にアイデアを出し合う。
- 「自分たちの部さえ良ければいい」という部分最適ではなく、「組織全体の持続可能性」を全員で模索する全体最適の視点を共有する。

結び(総括)

本理事会は、これまでの「財政的に余裕のある運営」が不可能になった現実を全員で正しく共有し、新しい同窓会のあり方をゼロベースで描き直すための重要なスタート地点(キックオフ)として位置づけられた。